

一般質問 (3)

未成年者の自殺をなくすために子どもたちに伝えることは

中川 清志(自民・無)

【質問】西東京市では、平成21年からの10年間で、9名の未成年者が自殺した。市長・教育長として、生命に対する認識を子どもたちに向けて示してほしい。

【市長】私は、医師として、東京都の児童相談センター長として、市長として、人命にかかりを持つ道歩んできた。子どもたちが自己肯定感を持つことが大切であり、そのためには特に乳幼児期の安全基地としての家庭の役割は大きい。子ども条例の前文にもあるが、失敗や間違いをしてもやり直し、成長できる。心理的な復元力は、子どもの方が強いと言われる。私も子ども

旧青梅街道沿いに聖火リレーを！小中学生に東京五輪の観戦を！！

浜中 のりかた(自民・無)

【質問】東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーの概要について問う。

【答弁】オリンピックの聖火リレーは、7月15日に清瀬市、東久留米市に続き、3番目に聖火を受け取り、小金井市につながるルートである。一方、パラリンピックの聖火リレーは、8月24日に1番目の自治体として実施される。詳細は未定である。

【意見】市を挙げて聖火リレーを盛り上げよう。

【質問】市内小中学生の東京オリンピック・パラリンピックの観戦について、小学4年生以上と中学生全員の観戦を申し込んだことだが、小学校低学年の観

西東京市制20周年へまちづくりに邁進せよ！

酒井 こう一郎(自民・無)

総合計画について

【質問】総合計画における公園の活用や整備の位置づけは。

【市長】成果目標を定め、民間活力の活用や公園が地域コミュニティを醸成する拠点になるよう活用を図る。

【意見】市としての公園活用計画を都に示すべきだ。

市民の農業体験について

【質問】農業体験は大切な地域資源だ。体験農園は農業者の指導を受け、農業体験ができる。まちの魅力を市として支援すべきだ。

【市長】体験農園の開設や運営支援を通し、まちの魅力を感じられる施策を進める。泉小跡地活用について

保谷庁舎さよならセレモニーを！！回収変更で家にたまる古紙

稲垣 裕二(自民・無)

保谷庁舎について

【質問】現保谷庁舎解体後の保谷庁舎はどこになるのか。

【市長】防災センター・保谷保健福祉総合センターを保谷庁舎とする。

【質問】現保谷庁舎は旧保谷市誕生の昭和42年に着工し、



今後解体予定の保谷庁舎

方について、市の認識は。【部長】なるべく早い時期に有効な制度に見直しを図る。東伏見公園について

【質問】公園東側に設置予定のトイレの状況は。

【市長】東京都からは、近隣住民のご意見もあり、ご理解いただくため時間をかけて進めると聞いています。

【質問】公園内の市道や市立公園の取り扱いについて、東京都との協議状況は。

【部長】市道の扱いについて東京都と調整を始めている。

【意見】市にとって貴重な財産である。無償譲渡はあり得ない。十分な対応を。

廃電化製品回収チラシ等、せせらぎ公園のザリガニについて他

小林 たつや(自民・無)

【質問】台風19号上陸時の市HPの不具合について何う。

【答弁】都のクラウドサーバーの不具合であった。

【意見】避難所では「防災士」を名乗る人物が指示系統を乱したとの話を聞いている。今後は、このようなことがないように発災初動時の指示系統の対応を望む。

【質問】廃電化製品回収、排水管洗浄等のチラシについて何う。

【答弁】市の許可を受けていない収集等は認めていない。また、点検商法という手口もある。消費者センターへの相談や商工会会員事業者から見積もりをとり、契約をしてほしい。

【意見】市HPでは警告しているが、市報にも載せよ。

【質問】谷戸せせらぎ公園にザリガニがいると聞く。

【答弁】情報は届いていない。上の池は本来ならピ

フレイル健診導入後急増する対象者が課題だ

保谷 なおみ(自民・無)

マイナンバーカードの活用について

【質問】マイナポイント制度が、令和2年秋に開始される

【意見】一生に一度を大切に、どんな形でも思い出に残るように工夫を求めよう。

【質問】市民の入れない市役所の執務室内で、市議会議員が市職員に対して政党機関紙の購読・勧誘・配達を行って不適切であると考えが市の見解は。

【答弁】職員の政治的中立性に誤解が生じるのであれば、受け取りや購読料の支払いは行わないよう対応する。



歯科衛生士による歯磨き指導

【質問】総務省資料によると、ポイントの使用の際は、スマートフォン等で決済する仕組みなので、カードを持参する必要はない。登録店についても、QRコードを用いたキャッシュレス決済を行うため、特段の準備や手

【質問】事業開始後3年経過した。成果と今後の展望は。【答弁】3年間で延べ約1千人がフレイルチェックを受講し、アフターフォローもきめ細かく実施してきた。令和元年は歯科医師会と連携し、オーラルフレイル予防の一環として、歯科検診につなげる取り組みを開始した。国は令和2年度から後期高齢者を対象にフレイル健診を全国的に導入し、高齢者の保健事業と予防事業も一体的に取り組み。

【質問】フレイル健診を実施すると、対象者は何人になると予想しているか。【答弁】本市では1万3千人と試算している。【意見】急増する対象者のアフターフォローが課題だ。



谷戸新道沿いにある谷戸せせらぎ公園